

チャレンジ賞は齋藤健二さん サフラン賞は上田喬子さん 第18回受賞者 喜びの声

30歳代までの視覚障害者を対象に、職業自立をし、視覚障害者の文化や福祉の向上に寄与する人材に贈られる、チャレンジ賞（男性）とサフラン賞（女性）。第18回の選考委員会が6月、両賞を主催する視覚障害者支援総合センター（榑松武男理事長。東京・杉並区）で開かれ、チャレンジ賞は齋藤健二さん（38歳、神奈川県立平塚盲学校 教諭）、サフラン賞は上田喬子さん（33歳、日本点字図書館 職員）に決定しました。7月18日に杉並会館マツヤサロンで行なわれた贈呈式で、お二人には賞状と賞金50万円が贈呈されました。（本誌）

齋藤さんと上田さん

チャレンジ賞を受賞した齋藤健二さんは、神奈川県立平塚盲学校中学部に英語科教諭として勤務しています。同校中学部・高等部を経て、和光大学を卒業し、その後、カナダ・バンクーバーへも留学しました。帰国後は筑波大学附属視覚特別支援学校と平塚盲学校で非常勤講師を務めるなどし、2010年に神奈川県教員採用試験に合格。同年から母校・平塚盲学校の教諭として勤務しています。また、視覚障害者支援総合センターの就労継続支援B型チャレンジ（当時は授産施設）で、点字の校正にも従事しました。

サフラン賞を受賞した上田喬子さんは現在、日本点字図書館生活支援部 自立支援課の職員として自立訓練（生活訓練）事業

のICT訓練を担当しています。また、NPO法人視覚障害者パソコンアシストネットワーク（SPAN）の理事として、様々な講座・講習で活躍しているほか、本誌にもICT機器に関する寄稿や鼎談への参加をしてくださっているのは、ご記憶の読者も多いでしょう。学生時代には声楽を学び、音楽家として数々の演奏会などで活躍しています。2019年からは、点字楽譜利用連絡会の運営委員のひとりとして、点字楽譜の一層の普及にも尽力しています。

両賞について

サフラン賞は、2003年に解散した財団法人東京サフランホームの残余財産を基金として、視覚障害者支援総合センターによって同年に創設されました。東京サフランホームは、視覚に障害がある女性のための全寮制の自立施設で、マッサージなどの施術を行ないながら実技訓練、生活指導などの教育プログラムも運営していました。45年間に約100人を社会に巣立たせた実績と伝統を継承していくことが、サフラン賞の設立趣意です。

チャレンジ賞は高橋実・視覚障害者支援総合センター創業者と、当時、視覚障害者用福祉機器メーカー・ケージーエス株式会社の社長だった樽松武男・同センター理事長の思いから誕生しました。「名を成した人へ贈る賞ではなく、これからの若手を励ますような賞をつくりたい」という夢と、「若い視覚障害者が努力すれば報われる環境づくり」という理念が結実し、2003年、ケージーエス株式会社の創立50周年を記念した基金の寄付を受けて創設されたものです。

続けて、お二人の喜びの声をお伝えします。